

1. ゴールボールをとおして子どもが達成する目標

- ① 友だちとコミュニケーションを図る
 - ・自分を相手に知ってもらう
 - ・相手の名前を読んで気づいてもらう、安心してもらう
- ② 空間認知能力を育成する
 - ・目かくしをした状態で、自分のいる場所や方向を感じ取る
 - ・ボールが近づく、離れる感覚をつかむ
- ③ 視覚障害やゴールボールについて理解する

2. 子どもに指導するうえでの心構え

- ① 子ども同士が接する機会をつくる
- ② 全員が目が見えない状態に不安を感じていることを気づかせる
(オロオロしている友だちをからかわない)
- ③ 声をかけたり、居場所を知らせて安心させる
- ④ 細かいルールにはとらわれず、子どもの自主性を引き出す

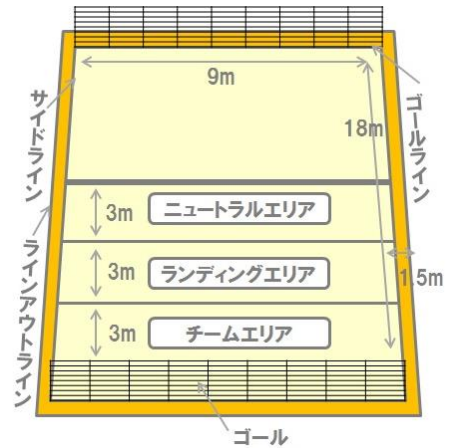
3. プログラム

内容	ポイント	関連する教材
ゴールボールの歴史について学ぶ	視覚障害、ゴールボールについての理解を深める	・目をつぶってみよう(トップ右映像) ・スポーツ紹介(ゴールボール)
目かくしをした状態で自分の位置を知る	アイマスクをした状態に慣れる 友だちとのコミュニケーションの必要性を理解する	・目かくしをして友だちをよぼう
目かくしをした状態で音をたよりに方向を知る	アイマスクをした状態で、自分のいる場所や相手との距離を耳を使って確認する	・目かくしをしてボールはどっち?
目かくしをして動いてみる	耳や手を使って動くことを体験する 仲間の名前を呼ぶ、確認するなどコミュニケーションを工夫する	・目かくしをして音に集まれ
ボールをさわってころがしたりとめてみる	鈴入りボールの音を聞くことに慣れる 友だちの存在を意識する	・目かくしをしてボールわたしゲーム ・アイマスクボーリング1 ・アイマスクボーリング2
ゴールボールのルールを学び、実践する	ゴールボールのルールや意義を理解する	・ラインを確認する ・ボールをころがす ・ボールをとめる
試合をする	チームワークを意識する	ゴールボールの試合をする

4. ゴールボールに必要な用具など

- 服装
 - ・運動着
 - ・タオル(腹に巻く)
 - ・アイシェード(もしくは、アイマスク)
- コート
 - ・ゴール(マットを壁に立てかけることも可)
 - ・タコ糸入りラインテープ
- 用具
 - ・鈴入りボール(もしくは、ゴムボールやビーチボールをレジ袋に入れて、カサカサと音が鳴るようにする)

5. ゴールボールのコート



6. プログラムの一例

アイマスクボーリング1

段階	子どもたちの活動	ポイント
導入	○挨拶、準備運動	
映像を見る	○投影したコンテンツを見る	
準備	○2人1組となり、10メートルくらい間をあけて座る。 いずれかがアイマスクを着用する。	
実践	○半数の子たちが先に実践し、もう半数の子たちは、すわってみている。 ○アイマスクを着用した子がボールをとめる。着用していない子がボールをころがす。 ○同じペアで何度か繰り返す。 ○子どもたちの何人かに、やってみて(あるいは見ている)どうだったかを話す。 ○実践した子どもたちとみている子どもたちが交代し、なんとか繰り返す。 (時間に余裕があればペアを替えて実践する)	○アイマスクを着用していない子は、「今からころがすよ」「ボールが(相手からみて)右にいくよ」と声をかける。 ○鈴の音がよく聞こえるように、見ているほうの子どもたちは音を立てないように気をつける。
まとめ	○楽しかったことや難しかったことをふりかえる。 ○友だちの話をきいて、さらにどう思ったか感想を言う。	○どうすればキャッチする頻度があがるかを子どもたち同士で話させる。